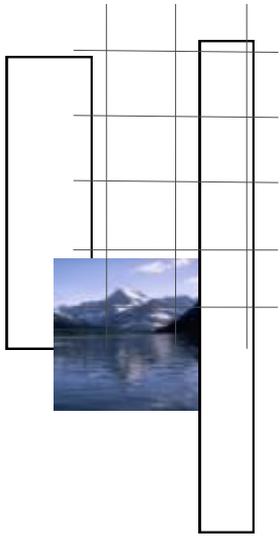


■発行一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団
 〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
 ■Publisher: Kumamoto International Foundation
 4-18 Hanabata-Cho, Chuou-Ku, Kumamoto-Shi, 860-0806
 TEL:096-359-2121/ FAX:096-359-5783
 e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL:https://www.kumamoto-if.or.jp/



フェアトレードシティ認定10周年を迎えて

フェアトレードは途上国で生産される農産物等を正当な価格で取引することにより、生産者の生活向上や人権を守ることを目的とする活動です。フェアトレードタウン（シティ）とは 民間団体、企業、店舗などと自治体が協力して、フェアトレードを推進している自治体に与えられた称号で熊本市は2011年6月フェアトレードシティに認定されました。世界ではすでに2000箇所以上が認定されています。国内では、熊本市をはじめ、名古屋市（2015）、逗子市（2016）、浜松市（2017）、札幌市（2019）、いなべ市（2019）の計6自治体が認定されています。

日本初！アジア初！のフェアトレードシティ誕生

熊本市では、英国ガースタンが世界初のフェアトレードタウンとして誕生した2000年代初め頃から、すでに民間団体によるフェアトレードを推進する活動が熱心に行われてきました。

2010年の市議会で「フェアトレード理念周知に関する決議」が全会一致で採択され、2011年に日本初、アジア初のフェアトレードシティに認定されました。

10年の取組

今年、本市はフェアトレードシティ認定から10年の記念の年を迎えました。これまで、フェアトレードの理念を周知するため、民間団体とともに様々な取組を行ってきました。

例えば、毎年11月には県内の団体が集まり、中心市街地でフェアトレードマルシェやセミナーを開催しています。製品を購入できるだけでなく、大学生や高校生が出店したり、小学生が石臼でのチョコレートづくりを体験したり、途上国の生産者の状況を実感するなど、学び

を実践できる場にもなっています。認定から3年後の2014年には、「フェアトレードシティくまもと推進委員会」が中心となり「第8回フェアトレードタウン国際会議in熊本」を開催し、世界22か国から300名あまりの方々に参加いただきました。そして、フェアトレードシティ認定から10周年となる今年、11月をフェアトレードマンスと位置づけ、民間団体と連携して、マルシェなどのこれまでの取組に加え、WEBを活用した「フェアトレード国際フォーラム2021inくまもと」を開催する予定です。

フェアトレードをさらに広めるために

～フェアトレード 熊本モデル～

本市がフェアトレードシティに認定されてから、フェアトレード製品を取り扱うお店は約70カ所から、2021年には109カ所になり、より身近に感じることができるようになってきました。

<p>《特集》フェアトレードシティ認定10周年を迎えて …… P1～4</p> <p>《事業報告》ものづくりフェア、国際ボランティア ワークキャンプ …… P5</p>	<p>目次</p> <p>Contents</p>	<p>《事業紹介》 …… P6</p> <p>世界を知る 青年海外協力隊OG 駒井佑子さん …… P7</p> <p>ちょっと日本語/きふプロ/ 令和3年度賛助会員募集 …… P8</p>
--	---------------------------	---

2020年度に実施した市民アンケートによると、フェアトレードについて「知っている」と答えた方は全体の52.2%と半数以上に上りました。傾向として、年齢別では若年層ほど認知度が高く、職業別では学生の認知度は100%でしたが、業種によって大きな差がみられました。

そこで、今後はフェアトレードタウン運動の先進地であり、本市の友好都市でもあるドイツ・ハイデルベルク市をはじめとする海外の取組を紹介したり、地産地消や障がい者作業所の生産品のPRイベントと連携するなど、本市のネットワークを生かしながら、様々な年齢や職業の方に知っていただく機会をつくっていきます。

また、本市は内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、2019年に「熊本市未来都市計画」を策定しました。フェアトレードはSDGs（持続可能な開発目標）すべてに関係し、「貧困をなくそう」や「つくる責任 つかう責任」など、特に8項目の目標達成に大きく寄与することから、企業や民間団体と連携し、SDGsと一体的に取組を進めていきます。

国内外の多くの皆様とのこれまでのつながりに感謝しながら、これからも国際貢献や人権尊重の精神を大切にフェアトレードの理念を広める取組を推進していきます。

熊本市のフェアトレードシティ認定10周年を記念して開催される「フェアトレード国際フォーラム2021 in くまもと」について、また、関連イベントとしてフォーラムの翌日に開催される「フェアトレードマルシェ」をご紹介します。「だれ一人取り残さない」未来を創るため、SDGsの視点からフェアトレードについて一緒に考えてみませんか？

フェアトレード国際フォーラム2021 in くまもと

開催日時：2021年11月13日（土）10:00～17:00

会場：熊本市国際交流会館

〈第1部〉 10:00～ ※要申込（先着100名）

オンラインでの参加も可能（YouTubeでタイトルを入れて検索）

・基調講演

「SDGsから考えるフェアトレードとコロナの先の未来」



SDGs研究の第一人者

蟹江 憲史氏

慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、同大学SFC研究所×SDG・ラボ代表、国連大学サステイナビリティ高等研究所非常勤教授等を兼任。北九州市立大学講師、助教授、東京工業大学大学院准教授を経て現職。実父は御船町出身。

・事例発表

熊本市／フェアトレードシティくまもと推進委員会
イオン株式会社／認定NPO法人NEXTEP

第1部問い合わせ先：熊本市国際課 096-328-2070

〈第2部〉 分科会別 13:00～

分科会1「フェアトレードタウンの課題と展望」

分科会2「教育（スクール・大学）におけるフェアトレード活性化」

分科会3「地域活性化とSDGs」

分科会4「市民と企業によるフェアトレード活動活性化」

第2部問い合わせ先：フェアトレードシティくまもと10周年実行委員会 080-3084-7093

くまもとフェアトレードマルシェ in びびれす広場

開催日時：2021年11月14日（日）10:00～16:00

会場：びびれす広場（熊本市中央区上通町2番 他）

熊本県内でフェアトレード商品等を扱っている団体が集まり、活動の紹介やフェアトレード商品等販売するマルシェを開催します。熊本でブレンドされた「withコーヒー※」も販売します。いろんなフェアトレード商品が揃いますので、是非、この機会に足を運んでみて下さい。

※「共に生きる」という意味を持つプレミアム・アジア・ブレンドコーヒー。FTコーヒーを販売する熊本の2団体が協力して作ったブレンドコーヒーです。豊かな香り、しっかりとした苦みと甘み、柔らかな酸味が特徴のコーヒーです。

【出展団体】

- フェアトレードシティくまもと10周年事業実行委員会
- NPO法人東アジア共生文化センター&熊本学園大学フェアトレード研究会
- 一般社団法人日本フェアトレード委員会・株式会社ナチュラルコーヒー
- フェアトレードブランド
- 株式会社TAKATA PAPER PRODUCTS
- パン・焼き菓子工房めりめろ
- 有限会社中村植物園
- UMU
- NPO法人ゆうステーション熊本
- 奥村鶏卵直売所
- 熊本市国際交流会館 link café



昨年のマルシェの様子

熊本市をフェアトレードシティへと進めるにあたって尽力されたのが明石祥子さん（フェアトレードシティくまもと推進委員会代表、日本フェアトレード・フォーラムフェアトレードタウン認定委員）ですが、当時の思いと、この10年間で振り返ってお話を聞かせていただきました。



（以下、明石さんとのインタビューより抜粋）

フェアトレード活動を始めたきっかけ

これまでの活動の約30年を振り返ってみると、フェアトレードを始めたきっかけは3つあります。

1つは20歳の時にフィリピンのバギオの学校に文房具を届けに行く、今でいうところのスタディツアーに参加しました。学校とは言うものの、ジャングルの中に建てられた粗末な小屋で、黒板はもちろん、椅子や机も無く、子どもたちは直接、地面に座って勉強していました。そんな中にノートや鉛筆などの文房具を手に持ち、子供たちの笑顔に会えると思いつわくわくしながら外で待っていると、一人の身体の大きい少年にその文房具を持ち逃げされてしまいました。あまりに突然のことで、何もできずに呆然としてしまいましたが、その事は学校の先生や関係者と大きな問題となってしまいました。文房具を届けたことが、逆に、問題を起す結果となってしまったことでショックを受けた私は、宿泊していた教会の神父さんに事の次第を説明し、どうすれば良いかを尋ねました。その時、神父さんに言われた言葉が未だに心に残っています。「自分で考えなさい」という言葉でした。

私は3人の息子の母親ですが、出産を通して命の神秘さと大切さを実感しました。しかし世界に目を向けると仕事やお金が無いことで、わが子を自分の手の中で亡くしてしまう母親が多くいるということを知り、熊本で子育てをしながら自分に何かできることはないか考えていました。

そんな時にイギリス人のサフィア・ミニーさん※との出会いがありました。彼女が来日して、まだ広く知られていないフェアトレードの活動を始めるという新聞記事を目にした私は、すぐに東京まで会いに行きました。そこでフェアトレードについての話を聞き、これならば、熊本で子育てをしながら国際協力の活動ができると思いました。そして熊本に帰りフェアトレードの活動を始めましたが、当時はフェアトレード自体の認知度はゼロに近く、活動を広めていくことに幾度も困難に会いました。

それでも私がこの活動を続けて来られたのは、生産者さんという相手がいたからでした。フェアトレードによって生活が救われたという声を聞き、自分がここで活動を止めてしまったら生産者さんが困ってしまう状況を考え、フェアトレードを途中で辞めることは考えません

でした。フェアトレードはその活動がきちんとされているかどうかを精査する「ソーシャルレビュー」という



集まりがあります。私も活動を始めた当初、東京で開催されたその会合に参加しました。そこで初めて出会った生産者さんは、バングラデシュ出身の男性ライハン・アリさんで、「私はフェアトレードのおかげで生きてきました。」と言われました。聞くところによると、彼の村では戦争により男性は全て銃殺されてしまいました。しかし、当時、幼かったアリさんは女の子と間違われたことで助かったそうです。父親を失った家族は貧困にあえいでいましたが、フェアトレードの活動により、一定の収入を得ることが出来るようになって、今は生活が営めるようになったそうです。この話を聞き、生き延びたライハンさんの姿に、私は涙が止まらなくなりました。

フェアトレードシティ認定活動へ

そんな私がフェアトレードシティの認定を目指したのはフェアトレードの活動を熊本で維持し、拡大する為です。フェアトレードの活動の応援にサフィア・ミニーさんはたびたび熊本にきてくれました。彼女よりフェアトレードタウンというものがイギリスに誕生したけれどやってみない？と言われ、私はすぐに「やってみよう」と答えました。

現在、フェアトレードの発祥の地であるイギリスでは小さな町でも「フェアトレード」が根付いていてフェアトレードタウンとして活動しています。フェアトレードタウンに認定されることにより、地域住民へのフェアトレードへの理解がより深まり、フェアトレードの活動を支援してくれる人の輪が広がるのではないかと期待しました。

※フェアトレードブランド「ピープルツリー」を展開するフェアトレードカンパニー（株）の創設者。フェアトレードファッションの世界的パイオニア。

その期待を胸に、2003年、フェアトレードタウンに認定されているイギリス オックスフォードへ視察に出かけ、現地の人にフェアトレードタウンについて尋ねましたが、フェアトレードについては、ほぼ知らない状態でした。

それでも、次のステップとして熊本市のフェアトレードシティ誕生！を掲げ、国際交流会館でのフェアトレードスチューデントカフェ「はちどり」を含め、学生や留学生達とフェアトレード（国際協力）が日常の服から気軽に体験できることを伝えるためにファッション



ショーなどの楽しいイベントを数多く開催しました。若者達と共に 当時の幸山市長にもファッションショーに参加いただくことにより、マスコミにも多く取り上げられて、熊本市にフェアトレードが徐々に浸透していくことを感じました。

そして2011年6月に熊本市は、アジアで初めて、世界で1000番目のフェアトレードシティの認定を受けることができました。その年は3月に東日本大震災が起きていたので、派手な行事はなるべく控えました。その後、5年目の2016年に熊本地震で自宅兼店舗が全壊しました。そして10周年の今年は新型コロナウイルス感染症と節目に大きな災害が起きていることを考えるとよく続けてこれたと感慨深いです。

何はともあれ、フェアトレードシティに認定されて一番良かったことは、「フェアトレード」という言葉の認知度が飛躍的に上がったことです。個人での活動は限界がありましたので、フェアトレードシティに認定されたおかげで街ぐるみでフェアトレードを応援する体制には入ったこととなります。

フェアトレードシティに認定を受けた年の10月にスウェーデンのマルメ市で開催された国際フェアトレード・フォーラムに参加しました。これまでのフォーラムはヨーロッパのみの開催でしたので、アジアで最初のフェアトレードシティとなった日本の熊本から来た東洋人の私を見て、出席者の皆さんはとても喜んでくださいました。その時の会議の中で、「ぜひ、熊本でもこのフォーラムを開催したらどうですか？」とアドバイスをいただき、二つ返事で引き受けました。そして2014年

にアジア初となる「国際フェアトレード・フォーラム」を熊本で開催し、無事に終了することができました。これまではヨーロッパ中心の参加者が熊本まで足を運んでくれるかどうか心配でしたが、多くの方が参加くださり、海外のフェアトレード先進地の方々と親しく交流ができました。

課題として挙げられるのは、この10年でフェアトレードの認知度は高まりましたが、「フェアトレードシティ熊本市に住んでいる」と知っている人はほとんどいないということです。

この10年間で1000ヶ所のフェアトレードタウンが誕生しましたが、(現在2000ヶ所のフェアトレードタウ



ンが存在します)、アジアにはまだ30数ヶ所しかないことです。

まずは、地元の人たちに「フェアトレードを街ぐるみで応援すると宣言した」フェアトレードシティ熊本に住んでいることを知っていただきたいと思っています。

今後について

最近よく耳にするのがSDGsです。「地球上の誰1人として取り残さない」ことを誓って先進国も発展途上国も、全ての国や人々が取り組むべき目標として掲げられています。フェアトレードはSDGsの17の目標達成に深く関係していると言われています。知ることから行動へ移し、個人の活動から他の人とつながることで大きな活動へとつなげていくことは急務だと思います。

フェアトレードは私たちが普段行っている「経済活動」を通してできる社会貢献です。貧困、人権、気候変動といった国際社会の3つの緊急な課題を同時に解決するための、1つの有効な手段であるといえます。熊本市がフェアトレードシティであり、今年で10周年を迎えるということを通して、熊本市民の皆さんにフェアトレードに関する理解がより一層深まっていくことを期待しています。



ものづくりフェア

7月26日に「ものづくりフェア」を開催しました。これは毎月開催している「子どもものづくり教室」の拡大版として、一日で複数の作品を作ることができるというものです。「ヒノキのコーナーラック」や「杉のトレーラー車」等の作成はとても人気で整理券を発行するほどでした。

ものづくりの材料は、杉やヒノキの間伐材、規格外のイ草などを使用します。皆さんそれぞれに自分で選んだ作品を作るため、のこぎりや木槌など普段は慣れない道具を使って作品作りを頑張っていました。

また、長洲町の協力で「金魚すくい」のコーナーを設置し、作品の一つである「ペットボトルホルダー」を作った人はその中にすくった金魚をもらえるという特典もついていました。

同じ材料ですが、工作の過程で自分の特徴を出すことにより、出来上がった作品はそれぞれに個性豊かな物

となっていました。中には子どもさんより、保護者の方が夢中になり、無言で黙々と工作に励む姿もみられました。このフェアには140人程の参加があり、夏休みの良い思い出の一つになったのではと思っています。

国際交流会館では、今後も「子どもものづくり教室」を開催していきます。自然の素材で自分の手でオリジナルの作品を作りたい方は、是非「ものづくり教室」に参加してください。



第16回国際ボランティアワークキャンプ

毎年夏休みの時期8月に国立阿蘇青少年交流の家で開催してきた「国際ボランティアワークキャンプin ASO（以下「ボラキャン」）」ですが、今年は中止となりました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏の開催予定が延期となり、12月に1日だけの日程で開催となってしまいました。今年は8月6日～8日の2泊3日で従来通りの開催を予定し、それに向けて実行委員の高校生（以下EC）のメンバーは3月から、話し合いを重ねてきました。コロナ禍でEC会議さえも対面での開催



は難しい時期もあり、オンラインの会議も交え話し合いを進めました。対面と違ってオンラインでの会議はなかなか話し合いが進まず、オンラインで話し合いを進めることに限界を感じ

始めた頃、ようやく6月末にまん延防止等重点措置が解除され7月から対面による会議が可能になり連日会議を行いギリギリまで準備を進めました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大規模な集まりとなる事業は自粛要請の対象となり、ボラキャンは中止せざる得なくなりました。中止の決定直後は、ECも悔し涙を流したり、落ち込む姿がみられたり、すぐに状況を受け入れることができず、気持ちを切り替えることは容易ではありませんでした。しかし半年以上かけてこれまで考え準備してきたことを、少しでも参加者に伝える方法はないか検討し、今回は動画配信という方法で各分科会の一番伝えたい内容を2時間以内に集約して動画にまとめました。収録までほとんど時間がない中での準備でしたが、「本番は中止になった

けど、自分たちに今できることをやろう！」と気持ちを切り替え前向きに準備に取り組んでくれました。

収録は国際交流会館2階の交流ラウンジにて、全員の検温、マスクの着用はもちろんテーブル上にはアクリル板を置き、定期的な換気を行い、分科会が終る毎に椅子・テーブルの消毒を行い新型コロナウイルス感染予防には十分注意して収録しました。

時間が短縮された分、各分科会の内容は密度が濃いものとなりました。3日間にわたり自分の担当した分科会は進行を行って、また自分の担当分科会以外には参加者として参加し...とかなりハードな内容だったと思います。それでも、自分たちがこれまで準備したことを発表できる機会を得たECのみんなは最後の分科会の収録が終わるまで、元気に生き生きと活動していて、見ているこちらが感動を覚えるほどでした。

今回は収録という形になりましたが、ECが伝えたかったこと、頑張ってきたことを少しでも動画をみていただき、伝われば幸いです。また、国際ボランティアワークキャンプの活動についてより多くの方に知っていただける機会になればと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大により様々な事業やイベントが中止となっている中で、活動の制限があったにも関わらずECの皆さんは自分たちの思いを出せたのではないかと思います。ボラキャン実施まで頑張ったことは、きっと将来の糧となると思います。

分科会の活動内容は今後、動画配信していく予定です。詳しくは熊本市国際交流振興事業団のホームページにてご確認ください。



今年度（令和3年度）も半ばを過ぎました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて延期や中止となった事業もありました。

感染状況を注視し、対策を講じながら国際交流・国際理解のプログラムを実施していきます。そんな中から今後の事業の一部をご紹介します。

韓国文化の日 12月5日

熊本市と韓国の蔚山市は2010年に「友好協力都市」の締結を結び、これまで様々な交流を続けてきました。この度、締結10周年を記念して韓国を紹介する「韓国文化の日」を駐日大韓民国大使館、韓国文化院、熊本市との共催で12月5日（日）に熊本市国際交流会館で開催します。

当日はホールにて韓国映画「エクストリームジョブ」の上映会をはじめ、「閑良舞（ハンリヤム）」や「コムゴ」等の伝統芸能、テコンドー演舞やK-POPカバーダンスの公演が披露されます。また、韓国書道（ハングル・カリグラフィー）や韓紙・折り紙工芸のワークショップ、韓国童話朗読会も予定されています。また、同日開催予定の韓国国際交流員のイ・ヨンスさんによる「異文化カフェ・韓国」は蔚山市の紹介特集となります。1階エントランスホールでは韓国に関する商品の物販も予定されています。まさに韓国を体感できる1日となります。



世界をよく知るセミナー 令和4（2022）年1月

世界的にタイムリーな話題について広く市民の方に知っていただくセミナーを開催しています。今年度は、が2022年4月に熊本市で開催される「第4回アジア・太平洋水サミット」に合わせて、世界の水問題についてのシンポジウムを1月に開催します。

多文化共生月間 令和4（2022）年2月



毎年2月を「多文化共生月間」として熊本市に生活する外国人についてのパネル展やシンポジウムを開催します。今後も増加していくと思われる外国人住民にも、住みよい社会を私たちが一緒になって作っていくには、どうしたらいいのかということを考える機会になればと思います。

災害時外国人支援多言語サポーター養成講座

現在、熊本市に生活する外国人住民の方々が地震や台風、洪水などの自然災害に遭遇した時、災害情報や災害に対する理解の不足から不安を感じたり、困ったりすることがないようにお手伝いいただくサポーターの養成講座を行います。「災害時外国人支援多言語サポーター」は災害時に避難所に避難した外国人への情報提供、災害情報の翻訳等、災害時に外国人住民へ安心・安全を届けるお手伝いをいただきます。





世界を知る

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

「ブラジルでの日本語教育を通して」

青年海外協力隊 2018年度3次隊 駒井 佑子 (こまい ゆうこ) さん
(2019年1月~2020年3月 ブラジル派遣 職種：日本語教育)



日本から飛行機を乗り継ぎ、20時間以上。私は南米大陸最大の国ブラジルで日本語教師として活動をしていました。ブラジル連邦共和国は国土が日本の約22.5倍にもなり、北部・東北部にはインディオやアフリカ系移民、南部にはイタリア系やドイツ系の移民が多い等、各地域で多様な文化や歴史が浸透し、今のブラジルという国が形成されています。

日本から移民してきた日系人のコミュニティもブラジル各地につくられています。ここでは運動会やカラオケ大会が開催され、昼食には地域の婦人会の方が作った漬物やおにぎり、煮物といった日本食が、ブラジルの食べ物と一緒に並んでいる風景が見られます。私は、サンパウロ市内にあるサントアマーロという地域の日系人コミュニティの中の小さな日本語教室で、日本語の指導や日本文化の授業を行っていました。



日本語教室の風景

私が配属されたサントアマーロ日本語学校では、親世代である日系2世の方から、3~4世の若い世代、アニメや漫画が好きで日本語を学びたいという非日系人など、外国語としての日本語に興味がある

様々な方がそれぞれの理由で日本語を学んでいます。そのため学習者の年齢層が下は6才から上は70代と幅広く、レベルもバラバラです。そのような学習者に対して、現地教師

2人と一緒に、各学習者にあった指導を心掛けて活動をしていました。活動をする中で、授業担当の割り振りや、学習者や教師間での連絡手段、お金の徴収方法などについて、共有ができていない、もしくは仕組みが出来上がっていないことが分かり、現地教師だけでも運営が出来る様に学校の体制を整えることも目標にしました。連絡手段の統一や年間スケ

ジュールの共有、既存教材の整理が出来て、2年目を迎える、というところで新型コロナにより一時帰国となりました。帰国直後は自分がやり残したばかり考えてネガティブな気持ちになっていましたが、現地の先生方とも相談し、時差がある中でもオンラインで活動を継続して、2年の任期を全うすることが出来ました。現地でお世話になった方々から



オンライン授業の様子

「先生、estou com saudades!」と言ってもらえてとても嬉しかったです。

活動の中で、言葉は通じるのに考え方が違うことで悩まされることもありま

したが、日本のやり方が必ずしも正しい訳ではなく、現地に合った方法を、現地の方としっかりと話し、継続できる形にすることの大切さを学ぶことが出来ました。

今回は新型コロナウイルスのため早めの帰国となりましたが、地球の裏側からでも出来ることがありました。これからも、何が起こるか分かりませんが、今いる場所で何が出来るかを考え行動し続けていきたいです。

ブラジルの紹介



国名：ブラジル連邦共和国

面積：851.2万平方キロメートル（日本の約22.5倍）

人口：2億947万人（2018年、世銀）

首都：ブラジリア

紹介：海外最大の約200万人の日系人社会があり、アマゾン流域のジャングル等、自然豊かな国です。

JICAデスク熊本について

JICA海外ボランティア（青年海外協力隊、シニア海外協力隊）や国際協力を興味がある方はJICAデスク熊本までお問い合わせ下さい
熊本市国際交流会館2階
午前9時~午後6時（日曜、月曜休み）
TEL：096-359-2130
E-mail：jica-desk.kumamotoshi@jica.go.jp

わよつと Japanese Tip
日本語

NPO法人日本語サポートあさ

代表 小川 ひろみ さん

日本語の落とし穴

私たちが日ごろ無意識につかっている日本語の中には違いや意味を聞かれてドキッとする「落とし穴」がいくつかあります。例えば以下のAとBの違いは日本語の教科書の学習項目でもありますが、さて違いをどう答えますか。

- A 窓があいています
- B 窓があけてあります

AとBは客観的に見た目は同じですからA(窓が開く→自動詞) B(窓を開ける→他動詞)のような文法の違いだけで、同じと答えていいのでしょうか。

- 例えば A「寒いですね。あ！窓があいています」と言われた時、
- B「空気が悪いですから、あけてあります」と答えます。

つまり、私たちは場面や状況、やり取りの中でAとBを区別していて、最初に文法を考えているわけではありません。日常場面のコミュニケーションこそが「日本語の落とし穴」回避のキーワードではないでしょうか。

きふプロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが撮るKJFのアクティビティ インターネットでもっとたくさん紹介しています。
http://blog.goo.ne.jp/kifblo

こんにちは。インターンシップ生として活動を行っています、稲本です。

本日は活動3日目です。まず、午前中に「くらしのにほんごくらぶ」に参加し日本語交流ボランティアの方と外国人の方を交えて会話交流を行いました。最近起きたことや好きな日本料理など、身近なトピックで会話を行い、日本語でできることを一つずつ増やしていくものでした。こういう活動が、より実用的な日本語能力の向上や学ぶ楽しさにつながるものであると実感しました。

午後からは、共にインターンシップ生と活動を行っている3名の学生と今回の研究テーマである、「グローバル人材の育成や流出防止」について意見交換会を行いました。

大津町で国際交流のホームステイのプログラム作りや小中学校での広報を行う中根くん、高校時代に韓国の学生との文化交流を行った増田さん、四国八十八ヶ所遍路大使を行い、外国人に料理などを教えるボランティア活動を行った篠原さんといずれも国際交流活動を積極的に行う学生でした。

議論を行う中で、熊本で国際人材を育成する上でのメリットやデメリットをあげ、改善点を考えました。彼らから出た、意見を参考にし、今後の研究を引き続き行いたいと強く考えた一日でした。

(稲本悠兵さん 高知大学 10月15日～11月2日 8日間のインターンシップ)

☆2021(令和3)年度賛助会員募集中!☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。

- ①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)

私たち、熊本市の国際交流を応援しています。

阿蘇医療センター、一般社団法人熊本市造園建設業協会、学校法人君が淵学園崇城大学、株式会社セイラグローブ、熊本県行政書士会、熊本日独協会、熊本労災病院、国立病院機構熊本医療センター、社会医療法人寿量会熊本機能病院、社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院

(2021年10月31日までにご加入いただいた団体の皆様) 50音順(継承略)



一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

住所: 熊本市中央区花畑町4番18号

熊本市国際交流会館

休館日: 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日~1月3日)

TEL: 096-359-2121

FAX: 096-359-5783

E-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp

URL: https://www.kumamoto-if.or.jp

